

九月例会御案内 (平成二十年)

財団法人 協和協会

△会長 塩川 正十郎

○ 御案内

九月二十六日(金) 正午～二時半 参議院議員会館一階 第一会議室 (第五八一回)

講題 日本政治はどうなるか — 分析と提言 —

講師 福岡政行先生(政治評論、選挙分析、白鷗大学教授、立命館大学客員教授)

この一年間に、総理が二人、辞任されたことで、政局は、かつてないほど緊迫した状況を呈しております。国内政治ばかりではなく、国際政治もアメリカ大統領選挙などで流動的であり、世界の経済もアメリカ経済の後退で、我が国にどのような影響を及ぼすか、予断を許しません。そうした時期に、我が国の政局は、民主党は小沢一郎代表が再選されましたが、自民党の側は、現時点で、五人の国会議員が総裁選に名乗りをあげております。その誰が選ばれるか、それは、九月二十二日まで分かりませんが、誰が自民党総裁になり総理になるかで多少の差異はあるとはいえず、いずれ本年中に総選挙となるのは、必至の情勢であります。

その場合、日本国民は、自民党を選ぶのでしょうか、それとも民主党を選ぶのでしょうか、大きな局面です。それだけに、今回は、「選挙分析の神様」として定評のある福岡政行先生に御解説をいただくことにいたしました。重大な局面、奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)

◎ 当日の会費 四千元(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

□ 御報告

八月の月例会は、恒例により休会とさせて頂きました。お元気で酷暑を凌がれたと存じます。去る七月二十四日の月例会は、終戦の夏を思い、大野芳(かおる)先生(ノンフィクション作家)に、「終戦後に進攻してきたソ連軍との壮絶な戦い」と題して、御講話いただきました。

その御講話の概要は、日本は昭和二十年八月、戦局ますます不利となり、日ソ中立条約を結んでいたソ連に終戦の斡旋を頼んだが、ソ連は、その日ソ中立条約を破棄し、八月八日に満州・朝鮮に侵攻してきた。日本は、八月十五日にポツダム宣言を受諾し、陛下の御聖断によって矛を取めたが、ソ連は、その二日後の十七日に千島列島の占守島を砲撃・上陸してきたため、日本軍はやむなく応戦せざるをえなかった。この応戦で多くの日本将兵が戦死し、民間人も殺害され悲惨な目にあった。ソ連の言い分では、日本が、米戦艦ミズーリ号上で降伏文書に調印した九月二日までは、日本と戦争状態であり、それまでに飛び石伝いに占拠した千島列島は返す必要はない。返すとすれば九月二日後に占領した歯舞・色丹の二島だけだというのである。参会者一同、この解説を聞いて、改めて終戦時を想い、胸の痛みを禁じえませんでした。

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十五本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、高津、古瀬

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

九月二十六日(金) 出 欠 (いずれかに○印—昼食弁当を用意するためにも)